

= 受賞 =

## 木曾明子先生 エイブルメディア「金杯」賞を受賞

( 共通講座 )

元本学共通講座教授・木曾明子先生(2001年退官)の論文「エウリピデス以降の『機械仕掛けの神』に何が起こったか?」(“What Happened to Deus ex Machina After Euripides?”)が、西洋古典学研究所(Classics Technology Center on the Web)主催のエイブルメディア「金杯」賞(AbleMedia's annual Gold Chalice Award)を受賞しました。

同賞はWeb上に開かれている西洋古典学の投稿フォーラムにおいて、年間の最良論文を決定するもので、1999年から毎年2,3名の世界的学者が受賞しています。木曾先生の論文は2002年度西洋古典学における世界最高の栄誉を得たことになります。

木曾先生の論文は、ギリシア悲劇にしばしば登場し、物語を大団円に導く「機械仕掛けの神」(Deus ex Machina)を扱ったもので、ギリシア劇において消滅し、その後のローマ劇には取り入れられなかったという説が圧倒的であるが、現代劇に至るまで、その名残のようなものが存続していたようにも見受けられる、という内容です。その足跡を、主にエウリピデス後期の演劇に関して辿った研究です。

本論文は、木曾先生が本学在職中に発表、投稿されたもので、Webサイトに掲載中です。

(<http://ablemedia.com/ctcweb/index2.html>)